

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回伊勢崎市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和5年3月16日(木) 午後2時00分～2時45分
開 催 場 所	伊勢崎市役所 東館5階第4会議室
出 席 者 氏 名	会長 大澤 誠 委員 美原 樹 委員 久保田 勝夫 委員 今井 亮一 委員 竹田 靖子 委員 清水 宏之 委員 高橋 博明 委員 斉藤 好隆 委員 井上 恵美子 委員 阿久津 都子 委員 惣名 香織 委員 城田 忍 委員 石原 純一 委員 黒須 一雄 委員 原田 憲二 長寿社会部長 小島 通悦 長寿社会部副部長 清水 潤一 健康推進部副部長 国定 千津子 高齢政策課長 茂木 勝美 介護保険課長 亀井 洋志 健康づくり課長 中野 厚 年金医療課係長 峯岸 美知子 年金医療課係長代理 大矢 実知代 在宅医療介護連携センターいせさき・たまむら 奥野 時伸 地域包括支援センター 徳江 剛 瀧澤 千晶 金井 幸子 吉原 美津希 児島 由香
傍 聴 人 数	なし
会 議 の 議 題	議事 (1) 令和4年度伊勢崎佐波地区退院調整ルールメンテナンス会議報告 (2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ～健康寿命延伸に向けた取組について～ (3) 家族介護について
会 議 資 料 の 内 容	第2回伊勢崎市在宅医療介護連携推進会議資料

会 議 に お け る 議 事 の 経 過 及 び 発 言 の 要 旨	1. 開会 2. 会長あいさつ 対面でお会いするのも本当に久しぶりです。コロナも収束しつつありますが、まだまだ医療介護の領域では慎重に日々を過ごしていかなければならない状況が続いてます。本来なら、この中で在宅医療介護の連携がおし進められていかなければならないものだと思いますけれども、それができずに内心残念な思いはございます。ディスカッションが活発に行われるようにしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。 3. 議事 (1) 令和4年度伊勢崎佐波地区退院調整ルールメンテナンス会議報告 【事務局】令和4年度伊勢崎佐波地区退院調整ルールメンテナンス会議について説明。 【委員】コロナ禍という状況の中で、より一層連携をしていかなければいけなかったこの3年間だったのかなと思います。病院同士で何ができるかということ踏まえてメンテナンス会議の前に11病院で集まって検討させていただきました。メンテナンス会議をやったことで何のためのルールなのかというところが改めてケアマネジャーさんと共有できたことで、その後の連携が多少なりとも少ししやすくなったのかなと考えますので、いい機会をいただけたのかなと思っております。 【委員】情報提供を以前までは病院に直接足を運んで相談員さんや看護師さんとやりとりをしていたという場面がなくなってしまい、連携っていうところがコロナ禍以前と少し変わったのかなというのはこのアンケートを見たり、メンテナンス会議をやったときにすごく感じました。先ほど委員もおっしゃっていましたが、直接ケアマネジャーと医療機関との話し合いの場を持つということで、やはり改めて患者さん、家族のための退院調整ルールというところがすごく実感できました。残念だったのがケアプランに反映できなかったというところで、これをあげたケアマネジャーがどうしてそう思ったのかということの課題を明確にして話し合いをしていかないと、ケアプランに反映をしていくことができないので、これは引き続き病院側と今後も話し合っていかなくはいけないことかと思っています。 【会長】病院の方で診療報酬上ではFAXや電話では加算が取れないのですね。例えばZ o o mで会議をするというような形はOKになったようですね。今後オンライン会議などが、非常にスムーズにできるようになったというところもあるので、そのニーズは多分これからも続いていくのではないのかと思います。それで患者さんの様子もきちんとチェックできるような形ができてくるといいなと思いました。その辺りが進歩していくと良いと思いますので、よろしくお願いします。 (2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について 【事務局】高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について説明。 【会長】ハイリスクアプローチですけど、実際限られた人材資源で市内全域でできるのかというのがとても気になる場所ですけどもいかがでしょう。 【事務局】今年度はモデル地区ということで1圏域、来年度は4圏域を目標でその次は全圏域というところではありますが、対象者の方をどこに絞るかやどこに焦点を当てていくかなど稼働できる職員の人数なども考え合わせながら、広域連合と相談しながら進めていく予定ではあります。 【会長】おそらくどこの市町村も保健師の人数がすごく絞られてきている状況がありますよね。
--	--

僕が開業した頃の30何年前に比べると本当に少なくなっていて、ちょっとかわいそうだなと正直なところ思います。やはりポピュレーションアプローチの方を充実させていく、その中にハイリスク者も入れてという方がおそらく効率がよいのではないかと私は思います。

【委員】事業は違ってきてしまうかもしれませんが、実際通いの場合は伊勢崎市内に75カ所くらいはありますよね。そこに今、主にPT、OT、STだけになっていますが、そこが管理栄養士とか歯科衛生士を含めたフレイルみたいなものを含めての講話なども協力次第では可能なのかなとは思っています。そこに保健師さんも入り込んで、力を合わせてやっていくというやり方の方がより効率的なのかなというふうに思います。

【事務局】ぜひお知恵と力をお借りできれば大変ありがたいと思ってますので、どうぞよろしくお願いします。

(3) 家族介護について

【事務局】家族介護について説明。

【会長】少し残念だったのが、家族介護者のための交流会の出席者が少なかったのが残念に思いました。いろいろ悩みを抱えていらっしゃる方はたくさんいると思います。

6. その他

【事務局】令和3年度に開催した会議の中で、ICTの活用についてのお話がありましたので、ICTの導入や活用について、県内11市に電話で聞き取りを行いました。その中で導入している自治体が4市であり、実施主体は委託先の医師会、システムはMCSということでした。MCSというのはメディカルケアステーションのことで、医療介護従事者、患者、家族のための非公開型SNSです。今まで電話やファクス等で行われていたコミュニケーションをSNS上で実現することで、医療介護の効率改善の向上を目指したコミュニケーション手段ということです。このMCSを導入し、活用しているところだと、終末期等の医療と介護の連携に使用することが多いというアンケート結果が出たそうです。在宅医療を行う医師は使用している印象があるということでした。また、看取りや難病、緊急性のあるケースがある病院では、医師の活用もあるそうです。グループの登録はケアマネか訪問看護の担当者が多いということでした。今後も他市の取り組み状況等の情報収集を行いながら、関係者や専門職種等のご意見や先進地の状況等を参考にしながら、ICTの活用のあり方について検討していきたいと考えています。その中で、ご相談させていただいたり、ご意見を聞かせていただいたりしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【会長】お話されていたのは、患者さんや利用者さんの情報共有ということです。これに関して、まだまだ抵抗感が多く、いきなりそこに入らなくていいのかなと思います。例えば、ここにいる方たちがMCSで繋がる、例えば今日の資料も、そのMCSを通じて共有するとそこでもうディスカッションが行われる。当然会議って非常に限られた時間ですから、もっと本当は言いたいとか、話したいとか、書きたいとかってそういう方もいらっしゃると思います。まずはここにいる人たちが繋がるということの一つやれるといいのかなと思います。徐々に徐々に広げていき、市の方も繋がって、意見を聞いてもらったりというのもいいのかなと思ったりもします。だから、個人情報っていうところはさておいて、まず繋がるというところの一つの方法として、そのメディカルケアステーションっていうツールを使っていくのはよろしいかと思います。実は結構いい勉強会をやったりしてるのですが、それを周知することが実はできないのです。そういうところからまずいろいろな事業所を取り込んで連携して繋がっていくことができるといいのかなと思います。

	す。 【事務局】 次回の会議につきましては、日程が決まり次第、ご連絡させていただきます。 7. 閉会
--	---